

うきたむ考古通信

2016年8月号

■発行者 うきたむ考古の会
事務局 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 内
〒992-0302 山形県東置賜郡高島町安久津2117
電話0238-52-2585 Fax 0238-52-4665

♥ 考古資料館事業・考古の会共催事業報告

みる・きく・ふれる遺跡の旅21 「北秋田をめぐる旅」

7月2日(土)・3日(日)開催

●21回目の遺跡の旅で北秋田を訪れました。初日の2日は天気予報が午後から雨という、大雨に見舞われた昨年の津軽の旅と同じような悪天候が予想されました。5時30分に資料館を出発し、山形駅、山形県庁前を経由して6時45分高速道路に入りました。途中青空も見え、携帯で天気予報を見ながら最初の訪問地の特別史跡大湯環状列石に向かいました。

十和田南駅で全コースを案内していただく前秋田県埋蔵文化財センター所長の小林克先生と合流し、11時に大湯環状列石に到着しました。ここで、雨が降り始めたので、大降りになる前に遺跡を見ようということになり、万座、野中堂と詳細な説明を受けながらまわりました。途中やや強い雨に見舞われましたが、昼前にストーンサークル館に入ることができました。昼食後、小林先生に大湯環状列石と伊勢堂岱遺跡と題した講演をいただきました。環状列石の詳しい研究史を踏まえた解釈に、一同、感動しながら聴き入っていました。講演後、解説していただきながら出土品をじっくり見せていただきました。

午後2時、大湯を後にし、915年の十和田aの噴火で堆積した火山灰が泥流となって平安時代の集落を直撃した片貝家ノ下遺跡に向かいました。途中、北秋田を中心に分布する現代の環状墓石群を2カ所見学しました。墓を環状に巡らすという縄文時代以来の伝統が継続しているような錯覚を覚えました。昨年埋没した屋根が見つかった片貝家ノ下遺跡では今年も確認調査が行われる予定とのことで、その調査方法をどうするか等についてお話をうかがいました。片貝家ノ下遺跡の見学後北秋田市の胡桃館遺跡に向かいました。車中では大館市にゆかりのある「忠犬ハチ公」が話題となり、「土佐犬」はトサケンというのになぜ「秋田犬」はアキタイヌというの?という疑問が小林先生に発せられましたが、この回答は持ち越しとなりました。

初日の最後は915年の十和田カルデラの噴出物の泥流で埋没した胡桃館遺跡の現地を案内していただき、その学術的な重要性についてお話をいただきました。雨は降りまし

たが、見学にはほとんど支障がない程度でしたので、この予報の中では恵まれた旅初日でした。宿舎は伊勢堂岱温泉「縄文の湯」今回の旅ではここ以外に考えられないところです。明日は雨が上がることを願い、天気祭りを兼ねた懇親会が盛大に行われました。

昨夕の盛大な天気祭りが効き、夜半から、雨が上がりました。8時30分に宿舎前で記念撮影後、伊勢堂岱遺跡へ向かいました。この春、オープンしたばかりで、皆初めての訪問となりました。遺跡の見学を楽しみにしていたのですが、熊の親子の出没があるということで、遺跡内への立ち入りは禁止となっていました。天気は良くなったのですが、熊に阻まれました。熊に襲われ、犠牲者が多発していることを考えれば、無理な措置と、遺跡への立ち入りは次回に持ち越さざるを得ませんでした。

縄文館でプロモーションビデオや遺跡のパネル、出土品の解説を聞きながら約1時間、楽しませていただきました。4つのストーンサークルがある訳ですが、昨日からの小林先生の解説にあったように、存続期間は後期前葉の短期間であることを、展示された出土土器が物語っていました。

伊勢道岱縄文館を後にし、能代市の史跡檜山安東氏城館跡へ。途中高速道路で調査されたアスファルト精製遺構が見つかった烏野上岱遺跡や続縄文の寒川遺跡、旧石器時代の縄手下遺跡などを車内から紹介していただきました。

檜山安東氏城館跡のある檜山地区では「納豆祭り」があり、大変な賑わいでした。事前に申し込んでいた「檜山周辺歴史」ガイドの会の方々の案内で、バスで狭い山道を登りました。聞けば、このような中型バスで上ったのは初めてとか。運転手さんの技量に皆、感嘆の声を上げていました。三の丸（郭）で下車し、展望のきく檜台へ。その眺望を楽しみ、記念撮影。次いで主郭、二の郭を見、東郭の枡形を経て、将軍山へ。きれいに整備された山城を堪能しました。ガイドの方によればバスが上れなければ、現地見学を断る予定だったとのこと。一同改めて運転手さんに感謝の拍手を送りました。

11時30分に山を下り、急用ができた小林先生と東能代駅でお別れし、高速道路で昼食会場の道の駅琴丘に向かいました。名物の椎茸うどんに舌鼓を打って、各自土産物を買って、再び日本海東北道、秋田道、横手・湯沢道路、国道13号経由で17時15分に山形県庁前に到着し、18時過ぎに資料館に無事戻り、今回の遺跡の旅が終了しました。

荒天が予想された旅でしたが、遺跡の見学にはほとんど支障がなく、最後の檜山安東氏城館跡では、青空も広がりました。小林先生をはじめ、ご案内、解説していただいた皆様に、厚くお礼申し上げます。

館主催事業報告

🕒 考古学入門講座Ⅱが終了しました

平成28年7月10日／17日／24日（日）13：30～16：00に3回にわたって開催しました。その内容は以下のとおりでした。

〈第1回〉7月10日（日）

19 弥生時代とは 20 稲作の展開 21 集落と墓 22 弥生時代の山形
受講者数：19名

〈第2回〉7月17日（日）

23 古墳時代とは 24 住居と集落 25 生産と流通 26 古墳と副葬品
受講者数：16名

〈第3回〉7月24日(日)

27 山形県の古墳とその変遷 28 山形県の古墳時代の住居と集落

29 山形県の古墳時代の土器と木製品

受講者数：19名

なお、考古の会の13名の会員の方が受講されました。

引き続き平成29年度には「考古学入門講座Ⅲ」として古代・中近世の考古学について開講する予定です。

♥勾玉・弓矢・石器をつくろう

5月21日に続き、今年2回目となる体験学習が夏休み期間中である8月6日(土)に開催しました。勾玉づくり、弓矢づくり、石器づくりで合計21名の方が挑みました。例年は80名程度と多くの参加者があるのですが、今年はリオオリンピックの開会式と重なったことと、連日の高温も影響してか、参加者が少なかったのが残念でした。

♥ガラス玉をつくろう

6月18日(土)に開催しました。できるだけ多くの方に体験していただきたいとの考えから今回から三つの時間帯を設定して開催することとしました。15組までの予約を受けられる体制となりましたが、全部で6組16名の参加となりました。広報活動に課題を残しました。

♥古代風ブレスレットをつくろう

6月25日(土)に開催しました。昨年度と同数の37名の参加がありました。

♥スクールオブジョウモン

8月10日(水)に開催しました。夏休みの1日を縄文時代人になって様々な体験をしようという企画で今年度の新規事業として開催しました。7人の小学生の参加がありました。開講式に続いて「石器づくり実演」、「弓矢をうって獲物をとろう」、「石器を使っているものを切ってみよう」、「火をおこそう、縄文バーベキュー」、「ドッキーをつくろう」、「今日のおさらい」、閉講式と丸1日“縄文”に浸っていただきました。

展覧会の案内

👁企画展 森と暮らせば—縄文時代の植物利用—

山形県内から出土した縄文時代の植物に関する資料を様々な角度から展示を行い、縄文時代の多様な植物利用の実態を知っていただきます。展示構成は以下の予定です。

第1章「住と木工」第1節「住」、第2節「木工」——58点

第2章「食料獲得と加工」第1節「猟」、第2節「漁」、第3節「採集」——81点

第3章「容器と漆」第1節「容器と漆製品」、第2節「漆工具」——74点

第4章「衣・装飾・祈り」第1節「衣」、第2節「装飾」、第3節「祈り」——20点

縄文時代前期前葉から中葉の遊佐町小山崎遺跡、前期後葉の高畠町押出遺跡、後期前葉から中葉の小山崎遺跡の出土品を中心に寒河江市高瀬山遺跡、長井市長者屋敷遺跡、

米沢市上谷地b遺跡、村山市川口遺跡、天童市渡戸遺跡の資料を展示します。

通常は空調の整っている本館収蔵庫に保管されている押出遺跡出土の植物関連資料と国保有の彩漆土器 10 点、そして、昨年報告書が刊行された小山崎遺跡の植物関連資料（現在未公開）等、普段は目にすることができない貴重な資料を展示しますので、是非ご来館下さい。押出遺跡の彩漆土器は2週間毎に2点ずつの展示となりますので、2週間に一度お足を運んでいただければと思います。

館主催事業の案内

♥「秋の遺跡めぐり」

10月2日（日）に福島県中通り地域の遺跡や展示施設をめぐります。

👤第18期考古学セミナー（全3回）

「森と暮らせば－縄文人の植物利用－」

企画展のテーマに沿って、縄文時代の植物利用について考えます。以下の期日に開講します。開講時間は各日とも13:30～16:00です。

平成28年9月25日（日）

「山形県内の縄文時代植物利用の概要」

渋谷 孝雄（当館館長）

「押出遺跡の植物利用」

水戸部秀樹氏（（公財）山形県埋蔵文化財センター）

平成28年10月9日（日）

「小山崎遺跡の植物利用」

大川 貴弘氏（遊佐町役場）

「高瀬山遺跡の水場遺構と植物利用」

小林 圭一氏（（公財）山形県埋蔵文化財センター）

平成28年10月23日（日）

「縄文時代の植生史と植物利用」

吉川 昌伸氏（古代の森研究舎）

「出土遺体にみる縄文時代の植物利用」

吉川 純子氏（古代の森研究舎）

対 象：一般50名程度

参加費：全3回1,500円（1回600円）

👤企画展記念講演会

平成28年11月13日（日）「縄文時代の植物利用」

講師 鈴木 三男氏（東北大学名誉教授）

東北情報館



企画展 『森と暮らせば—縄文人の植物利用—』

入館料 一般／200円 大学生／150円 小・中・高生／無料
9月17日～12月4日
山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 TEL: 0238-52-2585



特別展 『山形の災害』

入館料 一般／300円 大学生／150円 小・中・高生／無料
7月9日～9月4日 山形県立博物館 TEL: 023-645-1111

プライム企画展 『よみがえる古の大寺院

「寶幢寺」至宝展』

入館料 一般／300円 大学生／150円 小・中・高生／無料
9月24日～12月4日 山形県立博物館 TEL: 023-645-1111



特別企画展 『いにしへの石の道具—ココロころころ—』

入館料 一般／400円 高校生／200円 小・中学生／100円
7月15日～9月22日 地底の森ミュージアム TEL: 022-246-9153



新発見考古速報 『発掘された日本列島 2016』

入館料 一般／500円 高校・大学生／300円 中学生以下／無料
9月22日～10月30日 秋田県立博物館 TEL: 018-873-4121



企画展 『齧田の原風景〔第Ⅱ期〕

考古学で巡る秋田・男鹿・八郎潟周辺』

入館料 無料
9月3日～3月12日 秋田県埋蔵文化財センター TEL: 0187-69-3331